

# CLC からしだね書店便り



9

September  
2024  
no.45

## \*今月のご案内\*

### ①連載第9回

「子どもと大人のためのこころの対話

—信仰と哲学



### ②読書感想本『子どもが孤独でいる時間』

### ③CLCからしだね書店からおすすめしたい一冊

『苦しむ人・悲しむ人の支えとなるために

スピリチュアルケアの現場から』

CLCからしだね書店では…

- ① キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落でかわいい雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださいるだけでもけっこうです。
- ⑤ 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、お好きな本を手に取ってお読みください。
- ⑥ 古書のコーナーもあります。ほりだしものあります。
- ⑦ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。

CLC からしだね書店 & カフェ トライアングル  
営業時間 11:00-17:00  
定休日 毎月第3木曜日は書店のみ営業  
日曜日と年末年始（※祝日も営業）

# 大人のための 子供との対話

哲学  
大路  
坂岡 信仰

前回までのあらすじ

ここは哲学的な対話を楽しむカフェ「べれや」。「集団の混乱を避けるために秩序は大切だ」と言うタネオくん。それに対し、マスターは、「一人ひとりの存在を大切にする」姿勢（イエスの）が欠けている場合、それは「本質を見失った秩序」になると語る。

**タネオくん**：「一人ひとりの存在を大切ににする」って、結局どういうことなんでしょう？

**マスター**：少し遠回りになるかも知れないが、パウロの次の言葉を参考にしてみよう。

ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人たちには——私自身は律法の下にはいませんが——律法を持たない者たちを獲得するためです。律法を持たない人たちには——私自身は神の律法の者ですが——律法を持たない者たちを獲得するためです。（「ワント人への手紙第1章20～21節）

**からしまん**：その人が生まれ育ってきた人生の歴史や、文化的・宗教的背景に思いをはせ、尊重しながら関わっていく姿勢を感じられますね。

**タネオくん**：そう言えばパウロはギリシャの人たちと対話するときも、ギリシャの詩を引用しながら関わっていますね（使徒の働き17章）。

**マスター**：実はこの姿勢はイエスにも通じるものなんだ。

**タネオくん**：どういうことですか？

**マスター**：キリスト教信仰の核心は、「神が神としての口の立場に固執せず、人になった」ということ。上から田線で断罪するのではなく、異質な他者（人間）と同じ視点に降り立つ。そして共に生きよとした。understand という英語は understand (下に) stand (立つ) と書くよね。同じ田線に降り立つ。そしてお互い生きよとした。

**からしまん**：わかるよな気もするんですが、ちょっと理想論に聞こえます。相手とまったく同じ目線に立つことなんてできるんですね？

**マスター**：鋭いお指摘ありがとうございます（笑）。おっしゃるとおりで、どちらとも相手と自分は異質な存在であり、相手の体験している世界を完全に理解し切ることはできない。この点をわきまえておくことはとても大事だね。「クライエント中心療法」の創始者、カール・ロジャーズは、「井戸端的解説」についてこの定義している。「クライアントの私的な世界をあたかも自分自身のものであるかのように感じたり、しかもこの“あたかも”的”のように、”という性質を失わないこと」つまり、自分にとって大切なアイデンティティを喪失したり、



相手との境界線を見失う関わりは「理解」じゃない、というじだ。それはむしろ、依存とか支配に近くなってしまう。

**からしまん**：確かに。「あなたのことは何もかもわかってる！」っていう態度は、なんか怖いですね。侵襲的というか。

**タネオくん**：上のパウロの手紙を見ても、「私自身はこれこういう者なのですが」という自分軸（アイデンティティ）は手放していませんね。

**マスター**：ついでに言つて、福音書のイエスの振る舞いは案外冷たがつたりする（笑）

**からしまん**：そんなことありましたっけ？ いつも優しいイエス様なのでは？

**タネオくん**：まあ「冷たい」というのは語弊があるかもしれないが、「相手の自立性を尊重している」とは言つていいと思う。ますそ

もその話、イエスは復活した割に、早々に「昇天」しちゃう。うよね。弟子たちをほったらかしにしちゃう。

**からしまん**：「もういなくなっちゃうの？ ずっとそばにいてくださいよ…」とは言いたくなるかも。

**マスター**：それからイエスは意外にも、「誰でも無差別に癒やしている」わけじゃないんだ。本人が自分なりの応答性を示さなければ奇跡を起こさないし、起こせない、と福音書に書かれている（マルコの福音書6章5節）。イエスは確かに人と同じ立場に立つたけど、なんでも相手の都合のいいように動いたわけ

タネオくん：なんだか今日は哲学って言つよりカウンセリング論みたいになっちゃいましたね



（つづく）



## 「作者よりひとこと」

今回のポイントをまとめましょう。

- ①イエスは天から人と同じ目線にまで降りてきた（キリスト教用語で「愛肉」と言う）。
- ②パウロもまた、相手の立場になりきるうとした。相手が生まれ育ってきた人生史の中で、大切にしてきた価値や文化、宗教的背景を大切にして関わること。これもまた「愛肉」的な姿勢だと見える。
- ③ただし、イエスもパウロも、自分の大切にしている価値やアイデンティティといった「自分軸」を見失うことはなかった。
- ④「自分は自分」「相手は相手」というバウンダリーを見失うと、それは「共感的理解」ではなく、「支配」や「依存」に近くなる。相手の領域や独立性に関するわきまえをもつことが大事。



さかおか おおじ  
1988年京都生まれ。北海道大学大学院教育学院臨床心理学講座修士課程修了。札幌市内の児童精神科で臨床心理士として勤務。本質学研究会、哲学プラクティス学会、宗教倫理学会、キリスト教教育学会等の学術誌に論文掲載。札幌市若者支援施設Youth+（ユースプラス）でワカモノ哲学カフェを主宰するなど、オンラインや地域で子ども・若者と共に哲学対話をを行う活動に取り組む。

まず相手が大切にしているものや、バックグラウンドを尊重する。そうでなければ、「真理」は相手を黙らせる暴力になってしまいます。一方で、「なんでも相手の言いなりにならないこと、「自分自身を大切にする」こともまた、同じくらい大切です。「自分を大切にするように隣人を大切にする」というのが、イエスの教えです。しかし、その前提は「自分を大切にする」ことなのです。自分自身を尊重する姿勢がなければ、相手を尊重することもできない、と言えるでしょう。

哲学の言葉では、このような態度のことを「人格の相互尊重」（ヘーゲル）と言います。「相互尊重」は近代市民社会の原理になった重要な理念です。このことについては、いざれまた詳しく述じてみたいと思います。

## 読書感想本



### 『子どもが孤独でいる時間』

エリーズ・ボールディング著 松岡享子訳（二）ぐま社）1,430円（本体1,300円）



親も子も、それぞれ自分自身を歩きたいのだと、教えてくれる本

「学校、行かない」と、ある日、唐突にわが子が言う。親は、慌てふためきます。そして、「あなたのことはだいたいわかっているのよ」みたいな気になっていたことが大間違いで、「この子の親」としては若葉マークだったんだ…！という事実を、思い知らされる日々がやってきます。

そもそも、親と子どもとは全くの別人格。性格も生育環境も取り巻く人間関係も、子どもとして過ごす時代背景も、自分と自分の子とでは、全く違うのです。だから、いつたいわが子が今、何を考えているのか、何を悩んでいるのか、どんなことを感じているのか、知ることなどできません。

特に「努力すればなんとかなる」と言われ続けて努力した結果、「なんとかなってしまった親」の輝かしい成功体験は、たいへん説得力のある言葉であるかのような錯覚を生み、しみじみそんな「成功談」を語るなら、子どもは逆に固く心を閉ざしていきます。「世界には、学校に行きたくてもいけない子どもがたくさんいる。それに比べれば…」と、今度は子どもの知らない世界で起きていることを持ち出して、子どもの狭い世界を無理やり広げてやろう試みますが、「誰とも比較なんかできないその子だけの深い世界」を前にして、親のトンチンカンさは際立つばかりです。

このように多くの親は、なんとか子どもを理解したいと思いま

すし、子どもが一刻も早く、明るく元気な「日常」に戻ってくれるようにと願います。その挙句、「今、親ができるは何だろう？」と、子どもそっちのけで自身の深い悩みに突入していくのではないかでしょうか。

自分は親として何をすればよいのか？何をしてはいけないのか？どんな言葉をかけばよいのか？どんな言葉をかけてはいけないのか？間違ったことをしてはいけないけれど、今しかできない正しいことをちゃんと今、やらないといけない。そうでないと、子どもの人生がダメになる。そんな思いに囚われ、どんどん深みにはまっています。

朝に夕に困ったときの神頼み的な祈りをしてみます。それで心が休まるかというとちつとも休まりません。神さまはたいがいの場所ではないので、「神さま、沈黙ですか」という長い時間を手探りで過ごすことになります。でも、神さまへの信頼をぶつと断ち切れない理由は、「きっと神さまの方が私の手をつなぎ続けておられるからだるくな」という氣もして、神さまのお考えがなんだかよくわからないまま、しくしく泣きながらの毎日がしばらく続きます。

さて、そんな大人の皆さんに、ぜひ読んでいただきたいのが、この本です。

わたしたちは、ふつう子どもと孤独を結びつけて考えようとはしません。孤独と聞いてまず感じるのが淋しさであり、孤独の意味するものが、身寄りのないこと、仲間がないこと、人から離れて孤立していることであつてみれば、わたしたちは、できることなら、子どもをそのような状態におきたくない、と願います。

ところが、この小さな書物では、著書は、孤独（ひとりでいること）に別の角度から光をあて、その積極的な意味をさげます。そしておとな同様、子どもにとつても、生活のどこかに「孤独（ひとり）でいる時間（とき）」をもつことが必要だ、と説くのです。それは、自由であること、内に向かうこと、自分自身を見発見することのために欠かせない条件であり、人間にはひとりでいるときにしか起こらないある種の成長があるのだ、と。（「はじめに」3～4ページ）

このように冒頭から、「孤独」というマイナスイメージの言葉を、むしろ、子どもに必要不可欠な空間と時間として捉えなおすよう勧めています。

そう言えば、オンラインでいろいろなことができるようになつた昨今、「タイム・パフォーマンス（タイパ）」という言葉が流行つており、これは「短い時間でより効率的に物事を成し遂げたといふ満足感こそが大事で、一日をどれだけたくさんの仕事や趣味で埋められるかが自分の暮らしの充実度を表す」という考え方です。まるでコレクションのように増えていくネットつながりの「友達」の数は、自分の交友関係の広さとともに、タイパを測る物差しにもなります。

この本は、タイパや「友達」を否定するものではありません。しかし、この本からは、「なんのためのタイパなのか？」「どういふ人達とつながりたいのか？」「それによって、自分は、心から満

足しているのか？」という問い合わせが迫ってきます。そして、そのような問い合わせに応答する「私」というアイデンティティは、ちゃんと育っているのか？と、鋭く突っ込まれます。

社会化や、社会への適応の過程にのみとらわれていたのは、人間の中にある「神聖なるプラスアルファ」ともいいうべきものを説明することはできません。このプラスアルファこそが、究極的には、人間を単に自分が置かれた環境に順応するだけの存在に終わらせない何かなのです。（中略）もし人間が、そのための時間をとり、孤独の中に身を置いて、自分自身で何かが起こることをゆるさなければ、人間は、必ずや精神的に行きつまってしまうだろう、と。子どもでも、おとなでも、たえまなく刺激に身をさらし、外側の世界に反応することに多大のエネルギーを費やしていると、人間は刺激に溺れ、内面生活や、そこから生じる想像力、あるいは創造性の成長を阻止し、萎縮させることになるだろう、と。（14～15ページ）

筆者は、ひとりでいることが「利」であるかのようには思ひ込み、集団に自らを埋没させてしまう風潮を嘆き、それがセンチメンタルな言い草だと思われないために、神経系統の機能と創造力が発動するための条件に関しての研究についても述べています。そして、子どもが集団から外れたすみつけで一人黙々と何かを始める、大慌てで引っ張り出そうとする大人に対して警鐘を鳴らします。創造性の成長のためには、ひとかたまりの、誰にも妨げられることのない大きな時間が必要で、その時間を用いて、脳は意識と無意識の両層で、印象を選び分け、並べかえ、新しいパターンを創る——創造するのだと言います。そのうえで、アインシュタインをはじめ、多くの創造的な仕事をした人達が、子ども時代

にそのような孤独でいる時間を十分に味わつたといういくつかの例をあげています。

アインシュタインは、十五歳のとき、学校がいやでいやでたまらなくなりました。そのため、校医は、とうとうかれに「神經衰弱につき、最低六ヶ月間、両親と共にイタリアにおいて静養をする」旨の診断書を書き与えました。こうしてアインシュタインは、あちこちの教会を訪れ、アペニン山脈の山々を歩きまわりました。もし光線を封じ込められたらどうなるだろうと考へ始めたのは、まさにこの時期だったのです。（34ページ）

一方で筆者は、「孤独」と「孤立」は全く別のものだとも言います。いじめられたり、捨てられたりすることが、子どもの心に良い影響を与えるのは、当然のことです。私は、何年か前に、「便所飯（孤立している自分を周囲から隠すために、昼休みのお弁当をトイレで食べる）」なんていう、悲しい言葉を知ったのですが、そこに追い込まれる人の気持ちを想像して、胸がひどく痛みました。

もしそんな状況に子どもが置かれているとしたら、「孤立」から「孤独」へと場所を移動させてあげるのが大人の役割ではないでしょうか。それは、ある子にとっては「学校へ行かない」という選択になるかもしれない、ある子にとってはつまらない「友達作り」なんてものはさつさと見限つて、ひたすら図書館で本を読む時間に充てる、ということかもしれません。（本は決して裏切らない友達であり、人生の道案内です。）

私は、この本を読んで、学校に「一人でいられるスペース」があつたらしいな、と思いました。保健室がそういう役割を消極的

にはたしてきたとも言えますが、私はそのような場所に、もっと積極的な意味づけがほしいのです。学校の中でもいちばん陽当たりがよくて、開放感のある賛沢な場所。誰かの目を気にするのではなく、「孤独でいたい」と願う人が、思い思いに過ごせる広いスペース、ちょっと奥まった隠れ家のよくなースペース。そこでは、人の「孤独」をじやましない、というのがルールです。生徒だけではなく、先生にも、地域の人たちにも開放されていて、なおかつ犬猫と触れ合える一画があつたら最高。なによりそこでは、誰もがお互いの「孤独」を尊重し合うことを、知らず知らずのうちに学ぶことができます。孤独の喜び、哀しみ、さびしさ、心地良さを十分に味わい、それらの上に自分自身を築いていくことができる「人としての誇り」。お互いの「孤独」を尊重し、孤独な者どうしが自然につながり合っていく、そんな美しい場所で、もしかすると私たちも、本当の意味で「神」と出合うことができるのかもしれません。

この本の作者は、社会学を通して大学時代にクエーカー教徒になった女性なのですが、この本がアメリカで出版されたのが1962年、日本語に訳して出版されたのがその四半世紀後の1988年です。初版から約60年の時を経た現代、そこに書かれていることは、ますます今日的なものとなっています。原語はかなり難解なもののですが、表現力豊かな翻訳者によつて平易で味のある日本語に訳されています。

この本の日本語版の最後に、「親たちのための祈り」というのがあります。これは本当に素晴らしい祈りです。私は、コピーして手帳にはさんでいます。祈りながら、親もまた、勇気と励ましをいただきることができます。

# 森住ゆき 和紙ちぎり絵カレンダー 2025

毎月めくるのが待ち遠しい…。  
文字は見やすく、和紙の質感が美しい。  
書店員おススメのカレンダーです。  
日本語と英語の聖句が入っています。

本体価格 1,200 円+税

11月21日(木)15:00～  
オンライントークライブやります！

森住ゆき  
ニビモのための  
神のものがたり  
原画展 開催 11月18日(月)～23日(土祝)

森住ゆきさん(ちぎり絵作家)  
大頭真一さん(京都信愛教会・明野キリスト教会牧師)  
安田正人さん(株式会社ヨベル社長)  
場所:CLCからしだね書店&カフェ・トライアングル



読みやすい!  
使いやすい!



## 書店からの おすすめ本

『苦しむ人・苦しむ人の支えとなるために』  
著者: 塚寺俊之・島田裕子・赤列正清・岸本光子・清田直人・上田直宏・著  
(この中の「ことば社」) 1,500円+税

この本は、スピリチュアルケアとは何か? という問い合わせを、若者支援、病院のチャップレン、カウンセラー、教説師など、分野の違う現場の支援者たちの生の声を通して探つていこうという試みです。それぞれの現場からの報告は、皆、一筋縄ではないか、何をもって「解決した」あるいは「支援終了」と言い切ることができるのか、という悩みで満ちています。けれども、その悩みと向き合つていこうとするお一人お一人の姿勢と言葉には、誠実なあなたが感じられます。

クリスチヤンは、神による「解決」を急ぎ、ハッピーエンドや「証し映え」する派手な体験談を期待しがちです。それはパートーン化された、誰がきいてもわかりやすい「解決」の場合が多く、他人から「神様の恵みですね」とか「感謝ですね」とか「素晴らしいですね」とか言わなければ言われるほど、なんだかどんどん自分の体験からは遠ざかっていくような気がするものです。

ある方が教会で、ケンカ別れた親友に和解を求めて手紙を書いたという「証し」をしてくださったことがあります。その結果、その親友と再会して涙の和解ができました…というわけではなく、「なんの連絡もありません」

というそつけない「証し」でした。支援の現場も、そんな報われないががかりすることだけです。けれども「スピリチュアルケア」という視点を持てば、その報われなさの中에서도、生きる意味や人の存在価値を問い合わせることが可能になるのだと思いました。また、失敗に終わつたように見えたとしても、むしろそこに至るプロセスの中にいらっしゃる神の存在気づくことは、その人の人生に大きな意味をもたらすのだとも思いました。ちなみに「なんの連絡もありません」と「証し」したその方は、穏やかなほほとした顔をしておられました。

執筆者の皆さんのお手元に出てくるひとつひとつのエピソードはすべて、たいへん優しい、あたたかな視点で描かれていました。その姿勢と態度は、専門的に支援をしている人だけでなく、普通に暮らしている私たち一人一人が、家族や隣人の苦しみや悲しみにどうやって寄り添つたらよいか悩むときにも、たいへん参考になると思います。

キリスト教書店大賞2024にはノミネートされませんでしたが、CLCからしだね書店からおすすめしたい一冊です。



この夏、書店の看板犬「デブ」が天に旅立ちました。16才でした。我が家の大ですが、福祉施設からしだね館の犬でもあったので、からしだね館でも、書店でも、本の配達に連れて行った際には教会や幼稚園でも、とても可愛がっていただきました。でも一番の仲良しは私の夫で、夫以外の誰か呼びかけてもすべて無視する愛想のなさが、私は大好きでした。

デブの讣報は瞬く間に広がり、犬仲間が入れ代わり立ち代わりやって来ては一緒に泣いてくださいました。散歩途中に会う釣り人の女性は、「仲の良いお二人に癒されていました」と、湖畔に佇むデブと夫の写真パネルを贈ってくださいました。今はからしだね館の皆さんや家族と思い出を語り合い、泣いたり笑ったりしながら時を過ごしています。犬はそうやって、人と人とを温かく繋ぎ合わせながら、いなくなった後の暮らしを支えてくれるんだなあと思います。

折しも『信徒の友』9月号で、「犬は笑うか 動物と生きる」という特集が組まれていて、とても慰められたのですが、同時に私の妹が「犬はアーメンと言った」という体験談をきかせてくれました。牧師をしている妹は、ある日、信徒さんから「愛犬ミルが死にそうです」という電話を受けました。息も絶え絶えのミルと飼い主ご夫妻(妻がクリスチャン)のそばで、妹はただ祈ることしかできなかったと言います。「神様、ご夫妻にミルを送ってくださりありがとうございました。大切なミルをあなたの元にお返します。どうか、あなたの優しい御腕で抱きとめてください」すると、弱って声も出せなかつたミルが、祈りに呼応するかのように、一回だけ吠えたというのです。

さて、ミルが逝って数年後のこと、ご主人に末期の癌が見つかりました。「あの日お祈りの後に、ミルは『アーメン』と言いました。私もミルのように、まっすぐ神を信じたい」

ご主人は病床洗礼を受け、おだやかにミルの待つ所へ帰っていかれたとのことです。

(2024年9月1日発行キリスト新聞  
「縦断列島書店員日記」に掲載されたものの転記です)

## 「犬はアーメンと言つた」

C C C  
からしだね書店  
店長  
坂岡 恵



▲「書店のある  
からしだね館の屋上にて」

## 2024版 本革聖書カバー からしだねオリジナル

B6

共同訳  
新改訳  
旧約聖書  
新約聖書  
B6版  
が入る  
サイズです

からしだね  
オリジナル



植物タンニンなめしのヌメ革を染料で染めた後、  
ワックスで仕上げたレザーを使用しています。

ムラ染めのような美しい発色の  
ピンクとブルーの2色を、  
あえてシンプルなデザインで作成しました。  
使い込むごとに艶が出て、  
手触りもなめらかになっていきます。

8,000円(税込)

裁断からステッチまで  
手作業で仕上げた  
こだわりのカバーです



# 古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただけたとありがとうございます。  
(受付できないものもありますので事前にお知らせください。ご事情により  
当店より回収に行かせていただくこともあります。ご相談ください)

## 【献本をお願いしたい本の種類】

- キリスト教書、キリスト教に関連した本(多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 社会の中で起きている問題を扱った本
- 暮らし(料理、健康、経済等)にかかわる本
- 小説(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 漫画(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

百科事典・辞書・開封済みの  
CD・DVD・月刊誌・週刊誌等は  
受け付けておりません

## 【本の送り先】

住所:〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町75 からしだね館

宛先: CLC からしだね書店 献本係 電話: 075-574-1001 FAX: 075-574-0025

Mail: clc@karashidane.or.jp

## 【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしきえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

## 【献本感謝】

浜口雄二様、奥野信二様、林雅美様、水口徹様、水口美智子様、匿名様(順不同)

7月の古書の収益は 17,098 円でした。

【古本の売上を含む CLC からしだね書店の収益は、書店で働く障がい者の工賃になります】

献本くださった方のお名前を書店便りにご紹介させていただきたいと思います。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

## 編集後記

◆台風10号は、ほぼ10日間にわたって、スピード、進路ともにやきもきさせられましたが、結果、からしだね館の営業には、影響はありませんでした。大事をとて、8月31日(土)を全館休業にさせていただいたのですが…。とは言え、各地で被害が出ています。被災された皆様にはお見舞いを申し上げます。◆猛暑が続く中、カレンダーや手帳の予約、販売が始まりました。早めのご予約をいただけると、大変ありがとうございます。◆からしだね館の看板犬「デブ」が、16才2ヶ月の地上での命を終えて、7月24日早朝、天に帰って行きました。怖がりで人見知りの犬でしたが、可愛がってくださった皆様、本当にありがとうございました。【店長】

スタッフが引いたデブ。キーholderにもなりました



## お矢口らせ

以前からお知らせしている「こどものための神のものがたり」の絵本が現在制作進行中、もうすぐ絵本が仕上がります!そして、その制作者である、大頭牧師・森住ゆきさん・発売元のヨベル社社長の安田さんを交え、トークライブを行います。詳細・予約は店頭とホームページから。是非ご参加ください。絵本はもちろん、森住ゆきさんのカレンダー・絵はがきも販売します。

11月21日(木)15:00~  
オンライントークライブやります!

森住ゆきさん(ちぎり絵作家)

大頭真一さん(京都僧愛教会・明野キリスト教会牧師)

安田正人さん(株式会社ヨベル社長)

場所:CLCからしだね書店&カフェ・トライアングル

編集・発行:社会福祉法人ミッショングループからしだね

就労継続支援B型事業所からしだねワークス

からしだね書店&カフェ・トライアングル

〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町75 からしだね館

書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025

書店メール clc@karashidane.or.jp



CLCからしだね書店便りの  
バックナンバーはこちらから